



Japanische

Geschichtsschreibung Im Wandel der Epochen

歴史の諸相

太平記英勇傳
一家略傳史
柳下亭種員記

菜藤内藏之進年員

登喜元老
丹州氷上郡
猪野山の城
主の定規
の合戦の先
陣中衛の旗
頭を令度
の合戦の
頼む督將
一戦の敵比類
敵を坂右近丹部
春高の両勢と
切崩

聊敗る色も多し敵と交り味方
一旦み入ると安しと戦場と切抜幼き頃
在る此所に止りて様子と伺ふ味方の大将
妻子も自衛をこころひて此上、主君の難言
三井寺の杖陣に忍寄るも途途中で登喜が
駈つて廻る織尾長助の軍旗を行合戦に双方無双の極將
さし内藏の頭を運ぶもつれど、いかに元氣な
竟不生捕らう此之剛山も泉首せられし時、行年
或談が菜藤年員春高が勢にたがひて、自ら敵の勇士五人討取
此場で討死を遂ぐるも、菜藤程の勇士さるるの戦軍を遂行して自
もさるる前に登喜の運命を察し、既討死と究む程の菜藤も、始
始終の見識相違せしとて、傍わりの

口双空 殺身曝ち報君公
刈衣客 共感生涯一夢中
今一々夜のあはれも、
此の是乃も

Vortragsabend mit Podiumsdiskussion
22.04.2014, 18h ct, Juridicum 604
Die Studierenden des MA-Studiengangs "Japan in der Welt" laden ein